

オオナガザトウムシ

岡山県：留意

ザトウムシ目

Melanopa grandis Roewer

環境省：該当なし

カワザトウムシ科

選定理由

蒜山高原北部には大山型、それ以外の県北部には本州型が生息。真庭市北部には両者の移行域がみられ貴重。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

日本・朝鮮半島・ロシアウスリー地方。日本では日本海側に分布が偏る。

県内では、北部の脊梁山地沿い。

生息情報

体長約10mm。体は黒褐色で長め。腹部第2背板上に1棘がある。歩脚はやや短い。卵越冬で成体は7月上旬から10月まで。雄の触肢脛節下面に引き金状の突起が発達し、雌の生殖板は3区に分かれることを特徴とする大山型（大山周辺と島根県隠岐島に固有）と本州型（雄触肢はふつう。雌生殖板の区分は2）の2地理型がみられる。蒜山高原の南側には両者の中間状態を示す集団がみられる。

特記事項

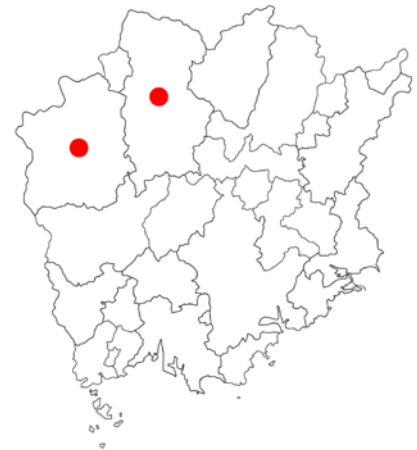
真庭市の蒜山高原南側から湯原温泉にかけての地域にみられる大山型と本州型の交雑帯は貴重である。

文献番号 146, 149, 153

(鶴崎展巨)



撮影：小林 秀司



イラカザトウムシ

岡山県：留意

ザトウムシ目

Gagrellopsis nodulifera Sato & Suzuki

環境省：該当なし

カワザトウムシ科

選定理由

染色体数は西粟倉村周辺で $2n=22$ 、奈義町以西の県北山地では $2n=16$ となる。岡山県側での調査は不十分であるが、これらの中間地域ではおそらく染色体数が連続的に移行する。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

山形県以南の本州・四国・九州（日本固有種）。

県内では県北部。

生息情報

体長4.5mm内外の中型のザトウムシ（フシザトウムシ亜科）。体は橙色で背中に瓦を積み重ねたような模様をもつ（とくに雌では目立つ）。年1化幼体越冬で、成体は5～6月に出現。標高500m以上の山地森林の樹幹や草本上でみられる。染色体数に顕著な地理的分化がみられる。県内では調査不十分だが、鳥取県側での調査結果からは奈義町以西では $2n=16$ 、これらの中間地域ではおそらく染色体数が連続的に移行する。

文献番号 17, 150

(鶴崎展巨)



撮影：鶴崎 展巨

